カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

記入者名	
記入年月日	2006年4月1日
学部・研究科名	教育学部
学科・専攻等名	学校教育教員養成課程
コース等名	教科教育コース・音楽教育選修

教育学部の教育目的（具体的に記述・箇条書き）			学校教育教員養成課程の教育目的（具体的に記述・箇条書き）				教科教育コース・音楽教育選修の教育目的				
学校教育および社会のさまざまな分野において教育の素養をもって貢献できる人材の養成を目的とする。			子どもを愛し教育および教職に対する責務を深く自覚することを基礎として、児童・生徒の生活指導から教科指導に渡る幅広い能力を持った人材を養成する。				多様な個性をもった現在の児童・生徒の発達の裡となるような音楽科教育を実践できる人材を養成する。				
学校教育教員養成課程教科教育コース・音楽教育選修のカリキュラム			学校教育教員養成課程のGraduation Policy(GP)　（◎＝ＧＰ達成のために、特に重要な事項、○＝ＧＰ達成のために、重要な事項、△＝ＧＰ達成のために、望ましい事項）				教科教育コース・音楽教育選修のGraduation Policy(GP)（◎＝GP達成のために、特に重要な事項、○＝GP達成のために、重要な事項、△＝GP達成のために、望ましい事項）				
授業科目名	授業科目の主題（箇条書） （この授業科目における中心となる題目、問題・テーマ等を箇条書に記入する。）	授業科目の到達目標（箇条書） （この授業科目の学習後に到達すべき最低限の（行動）目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書に記入する。）	S１．教育理念理解力・教職展望力　教育の理念や制度、教職の意義を幅広く深く理解し、広い視野から自己の将来のあり方を展望することができる。	S2. 教育方法・技術力、指導力、幼児・児童・生徒の心身の発達段階や教科の特質、教育方法・技術の基礎を理解修得し、発達段階に応じた指導をすることができる。	S3. 生活指導力：　道徳・特別活動・生徒指導に関する教育方法を修得し、幼児・児童・生徒の生活全般に渡る指導を行うことができる。	S４．教育実践力：教育現場における指導全般を実践的に理解・体得し、現場での適切な指導を行うことができる。	1：音楽理論基礎能力：音楽理論および音楽史の基礎的な知識を身につけ、さまざまな音楽的活動に生かすことができる。	2．音感基礎能力・音程・リズム・移調等の音感力を習得し、音楽表現の基礎として生かすことができる。	3．演奏表現基礎能力：声楽および器楽の基本的な演奏技術を身につけ、音楽科教育の演奏表現活動に生かすことができる。	4．作・編曲基礎能力：簡単な作曲を行うことができる能力、教材を編曲できる能力を身につけて、音楽科教育の創作・表現活動に生かすことができる。	5．教育実践能力：音楽科教育の指導内容と方法を理論的・実践的に学んで、1．から5．で獲得した音楽実践能力を基に、教育実践をすることができる。
学部共通科目											
総合演習	人類に共通する課題や日本社会に関わる課題について学ぶ。	1．人類や日本社会の課題を理解し、説明できる。　2．上記の課題を分析・検討し、自分の意見を持つことができる。 3．上記の課題についての自分の意見を相手に応じて分かりやすい形で伝えることができる。	1．◎ 2．◎	3．◎							1.○ 2.○ 3.○
領域に関する科目（小・中）											
倫理概論	1．教職の意義や魅力、求められる資質、能力などについて理解する。2．教職への意欲、志向、使命感などを育む。	1．教職の意義や基礎知識について理解し、説明できる。 2．教職への意欲や積極的な構えを持つことができる。 3．教職に就くための4年間の学習計画を立てることができる。	1．◎ 2．◎ 3．◎	1．△	1．△	1．△					
教育原論	1．教育を成り立たせる原則 2．教育の理念・目標とそれを支える思想の歴史的展開	1．教育の理念、目標、思想、歴史について説明できる。 2．授業で取り上げた問題について自分の意見を述べることができる。 3．教育について系統的に考えようとすることができる。	1．◎ 2．◎ 3．◎								
教育哲学	1．教育哲学の学問的性格 2．シュプランガーの生涯と教育哲学 3．シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育	1．教育哲学の学問的性格が理解できる 2．シュプランガーの生涯と教育哲学が理解できる 3．シュタイナーの教育哲学とシュタイナー学校の教育の特色が理解できる	1．◎ 2．◎ 3．◎								
教育史	1．日本の教育の理念・思想の歴史的展開 2．日本の教育の歴史的性格	1．日本の教育の理念・思想の歴史的展開について説明できる。 2．授業で取り上げた問題について自分の意見を述べることができる。 3．日本の教育の歴史的性格について説明することができる。	1．◎ 2．◎ 3．◎								
発達心理学	1．人間の発達の原理・要因について理解を深める。 2．発達段階及びその発達課題について学習する。 3．学校・家庭・地域など身近な場面での生涯発達として捉える。	1．自己の理解の上に立ち、発達心理学的知識を確実に吸収する。 2．知識やデータを主体的に受け入れ、自ら考え、判断できる。 3．日常生活に密接した領域・関心のある内容に意欲的に取り組む。 4．心理学的研究の方法や分析など基本的な手法について理解できる。 5．心理学を科学として位置づけることができる。		1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．◎ 5．◎							
教育心理学	1．学校における教育活動において子どもをどのようにとらえるべきかを概観する。 2．児童・生徒の発達と学習の原理、個性の理解、さらに障害児童生徒の心理、教育評価についてデータに基づいて説明する。 3．いろいろな指導法や心理療法について概説する。	1．子どもへの援助的な指導のあり方について理解できる。 2．児童・生徒の発達と学習の原理、個性の理解、さらに障害児童生徒の心理、教育評価における理論について、データに基づいた見方ができる。 3．いろいろな子どもに沿った指導法や心理療法があることを理解できる。		1．◎ 2．◎ 3．◎	1．○ 3．○						
教育社会学	本講義では、準拠集団における子どもの社会的発達（＝社会化）について理論的・実証的に理解するとともに、教育社会学的研究の基礎をつくる。	1．社会化概念について説明できる。 2．子どもの発達に対する準拠集団の実態・課題について説明できる。 3．講義中で触れた領域について自分の意見を論理的に展開できる。 4．現代社会における「子ども・教育」問題を指摘できる。またその出現・解決のメカニズムについて自分なりに解決しようする意志を示す。		1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．◎							
教育制度	1．学校教育には様々な「制度」、「仕組み」が存在している。それらについて、テキスト、ビデオ、配付資料をベースに解説を加えていく。 2．基本的に講義形式の授業だが、意見発表を求めることがある。	1．学校教育を中心とする教育制度の概要が理解できている。 2．教育制度の特徴や課題について自ら具体例をあげながら論じることができる。	1．◎ 2．◎								
教育法規	1．教育法規を初めて学ぶ者を対象に、現行教育法規の要点をできるだけ分かりやすく解説する。	1．現行教育法規の要点が理解できている。 2．主要な教育法規について、法規全体の文言、その意図するところを把握できている。	1．◎ 2．◎								
社会教育	1．生涯学習の観点から社会教育を方向づけるとともに、社会教育の各分野の基本的事項と課題について説明する。	1．生涯学習のねらい、キー概念などの基本的事項について理解できる。 2．社会教育の各分野の概要と課題について理解できる。	1．◎ 2．◎								
国際理解教育概論	1．国際理解および国際理解教育の必要性、基本概念、範囲について理解する。 2．各自の専門教科での国際理解教育の取り入れ方や実践方法について考える。 3．現在の日本の学校教育における国際理解教育との関連性を政策面および実践面から理解する。	1．国際理解および国際理解教育の必要性や概念 と歴史的展開について理解し、説明することができる。 2．国際理解教育の実践事例を自身の専門性と関連付けて考察することができる。 3．日本の学校教育と国際理解教育の関連性を理解し、説明することができる。	1．◎ 2．○ 3．◎	2．◎ 3．○							
教育方法学	1．授業の基本原則 2．主体的な学びの成立と指導 3．教育課程の編成	1．授業が持つ４つの基本的性格について理解し、説明できる。 2．児童・生徒の主体的な学びを呼び起こす指導の諸技術について説明できる。 3．教育課程の編成原理と方法について説明できる。		1．◎ 2．◎ 3．◎							
教育メディア論（教育課題、情報機器及び教材を含む。）	教授・学習過程（授業）において、「わかる」「楽しい」授業をめざしたさまざまな教材教具としての教育メディアの意義や役割、効果について学修する。さらにパソコン、インターネットなどによる多様化した今日の授業形態について考察し、教育メディアを効果的に活用した授業設計-実施-評価について学修する。	1.メディアを利用した授業の特徴を理解できる 2.論理的、批判的な思考力と判断力について学び実践できる 3.メディアを利用した教材の開発ができる 4.自発的、独創的に取り組む姿勢がもてる 5.メディアを利用したプレゼンテーション実践を通して、その計画・実施・評価ができる		1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．◎ 5．◎							
道徳教育	1．道徳の語源と意味 2．西欧の道徳観の変遷 3．道徳教育の目的・内容・方法	1．道徳の語源と意味について理解できる 2．西欧における道徳観の変遷について、哲学的、歴史的な観点から理解できる。 3．道徳教育の目的・内容・方法について、理解できる。	1．◎ 2．◎	3．◎	3．◎						
特別活動	1．特別活動の目標と内容 2．学級指導の基本原則と方法 3．特別活動の指導計画	1．特別活動の目標と内容について理解し、説明できる。 2．学級活動の指導原則とその方法について説明できる。 3．特別活動の指導計画作成の基本的観点と構成要素について理解し、指導できる。		2．○	1．◎ 2．◎ 3．◎	2．△ 3．△					
生徒指導概論	1．生徒指導の意義と目的 2．生徒指導の内容と方法 3．生徒指導計画	1．生徒指導の意義と目的について理解し、説明できる。 2．生徒指導の内容と方法について理解し、説明できる。 3．生徒指導計画の基本的観点と構成要素について理解し、説明できる。		2．○	1．◎ 2．◎ 3．◎	2．△ 3．△					
教育相談・進路指導	1．生徒指導と教育相談の違いについて説明する 2．学校における不登校、いじめ、非行などさまざまな問題に対する基本的姿勢について解説する。 3．臨床心理学のさまざまな技法について解説する。	1．生徒指導と教育相談の違いについて理解する。 2．不登校、いじめ、非行などさまざまな問題の原因を理解し、それらに対する基本的姿勢を身につける。 3．臨床心理学のさまざまな技法について基本的技法を理解する。			1．◎ 2．◎ 3．◎						
事前・事後指導	1．教育実習前と後に行う指導を通して、高等学校での教育実習の目標の達成をより確かなものとする 2．教育実習に求められる必要不可欠な基本的・基礎的事項を身につける 3．教育実習の意義・概要・指導方法についての講義を行う 4．教育実習で得られた経験から教育実習における問題点の整理し、実習前の教育観、授業観、子ども観との対比から教育や授業に対する課題を認識する	1教育実習を行うにあたって必要な基本的事項、教育実習にあたる心構えを身につけ、実行できること 2．授業記録を作成することができること 3．授業参観等を通して、教育観、学校観、授業観、子ども観をまとめることができること 4．授業参観等を通して、自分が行いたい学習指導、生活指導・生徒指導を説明できること 5．教育実習で得られた経験から教育実習における問題点を整理することができること 6．教育実習を通して習得した内容をまとめることができること 7．実習前の教育観、授業観、子ども観との対比から教育や授業に対する課題を認識することができること 8．教育実習を通して、学習指導、生活指導・生徒指導の観点から自分の姿勢について説明することができること	3．○ 7．○		4．○ 8．○	1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．◎ 5．◎ 6．◎ 7．◎ 8．◎					
領域に関する科目（小）											

教科教育法国語	小学校の国語科教科書における文学教材の学習指導のあり方について考究する。過去の優れた実践例や現在の指導例を紹介しつつ、今日の文学教育が当面する課題や問題点を検討してゆく。	1．文学教育の変遷および今日的課題について、概要を説明できる。 2．文学教育の問題点や今日的課題について、自分の考えをまとめることができる。 3．文学教育への関心を深め、実際の学習指導の改善に意欲的に取り組むことができる。 4．多角的な視点から問題点を捉え、考察を加えることができる。 5．自分の見解を口頭や文章で適切に表現できる。		1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．○ 5．◎							
教科教育法社会	1．小学校社会科の教材研究と教材構成 2．小学校社会科の授業構成	1．地域調査や教材研究を通して、小学校に対応した学習資料を作成できる。 2．一定の題材に関する小学校社会科の学習を構想できる。		1．◎ 2．◎							
教科教育法算数	1. 小学校算数に関わる基本的な指導内容について解説する。 2. 小学校算数の指導方法に関して解説する。	1. 小学校算数に関わる基本的な指導内容について理解する。 2. 小学校算数の指導方法について基本的な判断ができる。		1．◎ 2．◎							
教科教育法理科	小学校理科に関わる科学的事象の中から重要な教材を取り上げ、実験・観察を主体とした授業を行う。	1.小学校理科教材に関する基礎的知識を理解し、説明できる 2.小学校理科に関する実験・観察の技能を修得し、結果について適切な分析や評価ができる 3.自然事象を初め、身の回りの事象に広く興味関心をもつ 4.理科に関する児童の興味・関心を高める教授法を工夫できる		1．◎ 2．◎ 3．○ 4．◎		4．◎					
教科教育法生活	生活科の理念、目標、内容、方法について、わが国の学校教育の歴史と今日的な諸問題とを関連させながら講義する。なお、学校教育現場の教師による講義も後半に含め、生活科の授業計画や具体的指導のノウハウについて学ぶ。	1．生活科の理念、目標、内容、方法、課題について説明できる。 2．生活科の指導内容と関連させながら、低学年児童の発達特性ついて説明できる。 3．授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。 4．生活科に対する関心を広げ、問題意識を高めることができる。 5．日常生活の中で自然や社会と自分とのかかわりについて主体的に考えることができる。 6．日常生活の中で生活科で身につけた技能を活用し、表現することができる。		1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．◎ 5．◎ 6．◎							
教科教育法音楽	1．小学校の音楽科の実践に必要な、音楽科の役割・音楽的発達・音楽科の目標・評価などの知識や学習理論について教授する。 2．実践に向けて、学習計画・学習指導案について教授し、実際に教材研究を行って学習指導案を作成し、その模擬授業を通して授業研究を行う。	1．小学校音楽科に関する知識や学習理論を習得し、それらを音楽科の実践研究に活用することができる。 2．学習指導案の作成・模擬授業の実践を通して、小学校音楽科の内容・方法について研究することができる。		1．◎ 2．◎			1．○	1．○	1．○	1．○	1．◎ 2．◎
教科教育法図画工作	本授業は性格上、以下の2側面を持つ。(1)美術科教育学の基礎、就学全教育、初等教育・中等教育を通しての普通教育における美術教育の基礎的必須事項の習得。「美術科教育学 1～3」の基礎。(2)初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等の理解。小学校免許取得のための教職専門科目。	1. 普通教育における美術教育の基礎的必須事項並びも初等教育段階での美術教育の意義・歴史・目的・内容・方法・対象・制度等を理解する。	1．○	1．◎							
教科教育法体育	1. 小学校における体育科の教育内容・方法について学習する。 2. 授業は体育領域（海野）と保健領域（友定）に分け実施する。その為２グループ編成で、６～７回で担当を交代する。	1. 小学校体育科の体育領域および保健領域について、その教育目標、教科内容・教材づくり、教育方法等に関する基礎的事項を理解する。		◎							
教科教育法家庭	1．小学校学習指導要領「家庭科」の歴史的変遷について 2．現行小学校家庭科の目標、内容・指導方法・評価について 3．家庭科の独自性について 4．授業設計の基本的観点について 5．指導案の作成	1.小学校学習指導要領の変遷を理解する。 2.家族や人と関わる意味やよさについて説明できる。 3.家庭における安全、衛生を説明できる。 4.家庭科の教材と「よりよい家庭生活」形成の関連について理解する 5.「よりよい家庭生活」形成に向けて自らが実践しようとする。 6.小学校家庭科の基本的な事項について理解する。 7.授業を組み立てる際の基本的な観点について理解する。 8.児童の生活実態をふまえ、児童が興味・関心・意欲をもって取り組める指導案を作成できる		1．◎ 2．○ 3．○ 4．◎ 5．○ 6．◎ 7．◎ 8．◎							
教育実習（初等）I	幼稚園教諭免許・小学校教諭免許のための基本および応用実習	1. 小学校・幼稚園における全般的な教育活動を体得する。 2. 児童に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。		1．○ 2．○ 3．◎	1．○	1．◎ 2．◎ 3．◎					
教育実習（初等）II	幼稚園教諭免許・小学校教諭免許のための基本または応用実習	1. 小学校・幼稚園における全般的な教育活動を体得する。 2. 児童に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。		1．○ 2．○ 3．◎	1．○	1．◎ 2．◎ 3．◎					
教職に関する科目（中）											
音楽科教育法I	1．中学校の音楽科に関する基礎知識について教授する。 2．中学校の音楽科の実践に必要な歌唱教材範唱法・教材ピアノ伴奏法・教材の音楽分析法について教授する。	1．中学校音楽科に関する基礎知識を獲得し、それらを音楽科の実践研究に活用することができる。 2．中学校音楽科の実践に必要な歌唱教材範唱法・教材ピアノ伴奏法・教材の音楽分析法を身につけ、それらを音楽科の実践研究に活用することができる。				1．◎	2．△	2．△	2．○	2．○	1．◎ 2．◎
音楽科教育法II	1．中学校音楽科の実践に向けて、ビデオ教材による授業分析を行うとともに各領域の教材研究を行う。 2．学習指導案を作成し模擬授業を行って、中学校音楽科の内容・方法について研究する。	1．ビデオ教材によって中学校音楽科の授業を分析し、それを活用して各領域の教材研究をすることができる。 2．学習指導案の作成・模擬授業の実践を通して、中学校音楽科の内容・方法について研究することができる。				1．◎ 2．◎			2．○	2．○	1．◎ 2．◎
音楽科教育法III											
音楽科教育法IV											
教育実習（中）	中学校教諭免許・高等学校教諭免許のための基本および応用実習	1. 中学校・高等学校における全般的な教育活動を体得する。 2. 生徒に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。		1．○ 2．○ 3．◎	1．○	1．◎ 2．◎ 3．◎					
教育実習（高）	中学校教諭免許・高等学校教諭免許のための基本または応用実習	1. 中学校・高等学校における全般的な教育活動を体得する。 2. 生徒に対する理解を深める。 3. 教育指導技術を修得する。		1．○ 2．○ 3．◎	1．○	1．◎ 2．◎ 3．◎					
教科または教職に関する科目											
介護等体験実習	養護学校及び社会福祉関係の諸施設において、合わせて７日間、介護等の体験を行う。	個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深め、教員としての資質を向上させる。	○			◎					
国際理解教育論	1．国際理解教育とは何かを理解する。 2．国際理解教育の扱う分野についての知識を広げる。 3．国際理解教育を学校教育で行う際の計画をたてる。	1．国際理解教育の理念と歴史を理解する。 2．地球的な課題について知識を深め、理解する。 3．地球的な課題についての自分の意見を持てる。 4．学校で実践する際にどのような内容にすればよいかを考え、判断できる。 5．学んだことを自分の関心のある題材に応用することができる。 6．複雑な国際問題を理解しようとする。　7． 批判的に考えることができる。 8．自分の意見を論理的に発表できる	1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．○ 5．○	1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．◎ 5．◎ 6．◎ 7．◎	1．○ 2．◎ 3．◎ 4．◎ 5．◎ 6．○ 7．○						
教科に関する科目（小学校専門科目）											
初等科国語	本授業では先ず、言語と人間の関係及び国語学力の内実について、考案し、次いで小学校国語科授業を構想する基礎となる教材分析の視点ちお方法について具体的な説明を試みる。	1．言語の機能について説明できる。 2．小学校国語科の「内容」の得失について説明できる。 3．教材を多角的に検討し、指導すべき内容を的確に抽出できる。 4．言語の役割や働きに高い関心を持つ。 5．積極的に教材開発分析に取り組むことが出来る。 6．小学校国語科の「内容」について問題意識を持って考えることができる。 7．考察した結果や問題点を文章で適切に表現できる。 8．文学教材の授業改革はどうあるべきなのかについて理解する。 9．改革の視点を考えることができる。　10．授業改革について関心を示すことができる。 11．まじめに取り組むことができる。		1．◎ 2．◎ 3．◎ 4．◎ 5．◎ 6．◎ 7．○ 8．◎ 9．◎ 10．◎							
初等科社会	小学校社会科の題材として取り上げられている内容について、それぞれの専門的視座から問題構造の概要を概説し、教材開発への方向性を示唆する。	1．小学校社会科の題材として取り上げられている内容について、歴史学、地理学、法律学、社会学、哲学倫理学のそれぞれの立場から基礎的な理解を深める。　2． 小学校社会科教材分析の視点と方法を習得する。		1．◎ 2．◎							
初等科数学	1. 学校教育の範囲で扱えるさまざまな数学的問題に自ら取り組む。 2. 数学的見方・考え方、数学の面白さ、数学の価値等について考察する。	1．学校教育で扱えるさまざまな数学に理解を示すことができる。 2．数学的見方・考え方、数学の面白さ、数学の価値等について具体的に指摘することができる。		1．◎ 2．◎							
初等科理科	1.(前半)受講者全員に対して、理科教育の歴史、教授方法、教材研究等について、池田が講義する。 2.(後半)小学校理科における学習内容およびその背景となる基礎を、物理化学分野と、生物地学分野に分けて講義する。	1.小学校理科に関する教材を科学的に理解する 2.自然事象に興味関心をもつ 3.小学校理科の教材研究ができる		1．◎ 2．○ 3．◎		3.○					
初等科生活	1．小学校低学年の生活科授業を運営して行くうえで必要な栽培、飼育、表現等の知識、技能の修得を目指す。	1．生活科授業運営に必要な知識、技能を獲得する。 2．体験型授業の基本を理解し、構想できる。		1．◎ 2．◎							
初等科音楽	小学校における音楽科の教育実践に必要な音楽の専門的な知識や技術について指導する。	1.音楽に関する知識や理論が身についている。　2. 意欲的に音楽活動に参加し、創造的に音楽を表現することができる。 3.積極的に音楽的技能の習得に取り組み、音楽表現に生かそうとすることができる。		1．◎ 2．◎ 3．◎							

小学校歌唱伴奏法	ピアノ演奏の基礎と、その発展した形として、簡易伴奏法及び弾き歌いを学習する。	1．平易なピアノ曲を、中断せずに最後まで演奏することができる。 2．小学校の歌唱教材の弾き歌いができる。		1. ◎ 2. ◎							
初等科図画工作	小学校の図画工作科の授業をするうえで必要な美術の基礎的技術、知識を習得する。平面造形、立体造形、鑑賞の３つの分野を学習する。	1．小学校の図画工作科における題材を理解し、表現技術と理解のための知識を習得する。 2．また、美的感覚を錬磨する。		1. ◎ 2. ◎							
初等科体育	1．　小学校体育における各種の運動教材のうち、実践を通した学習として体操・器械運動とタグフットボールを学習する。　2. なお、実技は２班に分かれ、体操・器械運動とタグフットボールを途中交替してそれぞれ７回ずつ行う。	1.体操・器械運動とタグフットボールに関する知識およびルールの正確な理解 2. 講義に真摯に取り組む態度 3. 体操・器械運動とタグフットボールの実習および指導		1. ◎ 3. ◎							
初等科家庭	小学校で、家庭科を指導するために必要な基礎知識を学習する。食物・被服・住居・家族の4領域について学ぶ。	1. 家庭科教育の各領域における基本的な知識を獲得する 2. 各領域の専門的事項を教育に活用することについての判断ができる 3. 専門的内容の理解に基づいて、家庭科教育に対する関心と意欲を高める		1. ◎ 2. ◎ 3. ◎							
教科に関する科目（中学校専門科目）											
ソルフェージュ	音楽表現の基礎的な力を身につける為、譜音、新曲視唱、リズム叩き、ハ音記号の読みとり、移調奏を演習する。	1．楽譜を正しく表現する基礎能力が身についている。 2．移調奏の弾き歌いができる。			1. ○2. △		1. ◎ 2. ◎	1. ○			
独唱Ⅰ	発声の基本を学ぶ。	1．発声のしくみを知り、基礎トレーニングが出来る。　2．イタリア古典歌曲を歌うことが出来る。 3．中学校の歌唱教材を歌うことが出来る。			1. △ 3. ○			1. ○2. ◎ 3. ◎			
独唱Ⅱ	1．自然で響きのある発声ができる。 2．安定した音楽表現で歌うことができる。	1．レガート、スタカート、アクセントなどの歌唱表現方法が実践できる。 2．言葉に思いをこめて歌うことができる。			1. △ 2. ○			1. ◎ 2. ◎			
独唱Ⅲ	1．発声・呼吸・ディクション等の技術を磨く。　2．レパートリーの拡大、作品研究を行う。	1．自然で響きのある発声で、より広い音域を歌唱できる。 2．レパートリーを広げるために、多様な作品の研究に取り組むことができる。						1. ◎ 2. ◎			
独唱Ⅳ											
独唱Ⅴ	1．これまでの学習を統合し、豊かな音楽表現を目指す。 2．作品への理解を深める。										
合唱Ⅰ(日本の伝統的な歌唱を含む。)	小、中、高等学校の合唱教材、コンクール課題曲、宗教曲、古典から現代の作品まで、さまざまなジャンルの作品に触れて合唱経験を積む。	1．様々な合唱曲を歌唱することができる。 2．自らの歌唱力を合唱の形態の中で生かすことができる。			1. △			1. ○2. ◎			
合唱Ⅱ	合唱の指揮、指導を実際に体験することによって、効果的な指導法を研究する。	1．合唱の指揮が出来る。 2．合唱の指導が出来る。			1. ○2. ◎			1. ○2. △			
合唱Ⅲ	選曲から、指揮、指導、発表まで、合唱指導を総括する。	1．合唱の指揮が出来る。 2．総括的な合唱の指導が出来る。			1. ○2. ◎			1. ○			
ピアノⅠ	ピアノの基礎的な技能を習得させるために、練習曲やバロック及び古典派のピアノ作品を学ぶ。	1．順次高度になっていく課題を実行できる。 2．ソナタ形式の演奏スタイルを理解し、実践できる。						1. ○2. ◎			
ピアノⅡ	ピアノからの展開としてロマン派のピアノ作品を学ぶ。	1．順次高度になっていく課題を実行できる。 2．ピアノにて習得したものに加えてペダリングと音質を習得する。						1. ○2. ◎			
ピアノⅢ	ロマン派から近代・現代までの、幅広い作品に取り組む。	1．順次高度になっていく課題を実行できる。 2．ピアノⅡで習得したものに加えて標題音楽の特質を踏まえたピアノ演奏表現が実践できる。						1. ○2. ◎			
ピアノⅣ	ピアノⅠ～Ⅲまでの学習を踏まえ、採用試験、卒業試験に向けて準備を進める。	1．各人の力量に応じて、ピアノ作品1曲の演奏を完成させることができる。						1. ◎			
ピアノアンサンブル（伴奏法を含む）	主に歌曲を中心としたピアノ伴奏と、4手及び2台のピアノの為のデュオ作品の演奏表現を習得する。	1．楽器の操作に留まらず、楽曲の全体像としての表現内容を理解し、的確な演奏表現を選択できる。　2．パートナーと協力し合って、よりよい表現を研究することが出来る。 3．アンサンブルとしてバランスのとれた演奏表現ができる。			1. ○3. ○			1. ◎ 2. ◎ 3. ◎			
管・弦楽器Ⅰ	1．器楽指導の観点から、管・弦楽器の構造と音をつくり出す原理について講義する。　2．基本的な奏法について指導する。 3．習得した奏法のレベルに応じて平易な楽曲を指導する。	1．管・弦楽器の歴史、管・弦楽器の構造と音色、管・弦楽器の取り扱いについて説明できる。　2．適切な演奏姿と楽器の持ち方で、平易な楽曲を演奏することができる。 3．楽器固有の音色を感じることができる。			2. ○			1. ○ 2. ◎ 3. ◎		2. ○	
管・弦楽器Ⅱ	1．楽器固有の音色をつくり出すための基本的な奏法、例えば管楽器では腹式呼吸法・アンブシュアなど、弦楽器ではボーイングについて指導する。 2．楽器の取り扱いに慣れさせ基本的な奏法を身につけさせる段階から一歩進めて、レガート奏法・スタッカート奏法・運指法などの奏法について指導する。	1．管楽器では腹式呼吸法・アンブシュアなど、弦楽器ではボーイングのテクニックによって、可能な限り楽器固有の音色をつくり出すことができる。　2．運指法が理解できて、レガート奏法・スタッカート奏法による演奏ができる。			1. ○			1. ◎ 2. ◎		1. ○	
管・弦楽器Ⅲ	1．基本的な奏法に習熟させ、アーティキュレーション・フレージングについて指導する。 2．平易な楽曲の分析・演奏解釈・表現法について指導する。	1．基本的な奏法を確かなものにし、身につけたアーティキュレーション・フレージングで平易な楽曲を演奏することができる。 2．習得した楽曲分析・演奏解釈・表現法によって平易な楽曲を演奏することができる。			1. ○ 2. ○			1. ◎ 2. ◎		1. ○ 2. ○	
管弦楽器Ⅳ	1．管・弦楽器Ⅲに続けて、基本的な奏法を確かなものにしながら、アーティキュレーション・フレージングを深めるための指導をする。 2．進んだレベルの楽曲の分析・演奏解釈・表現法について指導する。	1．基本的な奏法について、管・弦楽器Ⅲより確かなものにし、さらに深めたアーティキュレーション・フレージングで楽曲を演奏することができる。　2．進んだレベルの楽曲分析・演奏解釈・表現法によって楽曲を演奏することができる。			1. ○ 2. ○			1. ◎ 2. ◎		1. ○ 2. ○	
管・弦楽器Ⅴ	1．管・弦楽器Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで指導してきた演奏技術や表現力を深める指導をする。　2．楽曲のより高度なレベルの演奏について指導する。	1．さらに深め愛した演奏技術や表現力によって、楽曲をより高度のレベルで演奏することができる。			1. ○ 2. ○			1. ◎ 2. ◎		1. ○ 2. ○	
合奏Ⅰ(和楽器を含む)	1．小・中学校の音楽科の観点から、リコーダーと和楽器の基本的な演奏技術を教授する。 2．小・中学校の音楽科の観点から、リコーダーと和楽器の演奏技術及びこれらの楽器の音楽についての指導法を教授する。	1．リコーダーと和楽器について、小・中学校の音楽科で指導するレベルの演奏技術で演奏できる。　2．リコーダーと和楽器について、これらの楽器の演奏技術及び音楽についての指導ができる。			1. ◎ 2. ◎			1. ○ 2. ○		1. ◎ 2. ◎	
合奏Ⅱ	1．　小・中学校の音楽科や課外クラブとしての吹奏楽の観点から、管楽器と打楽器についての基本的な知識や奏法等を教授する。 2．　中学校現場の活動を使って、吹奏楽の基本的な指導法を教授する。	1．管楽器と打楽器について、小・中学校の音楽科や課外クラブの吹奏楽活動で説明できたり、それらの楽器の基本的な奏法を演奏できる。 2．小・中学校の音楽科や課外クラブで、吹奏楽の指導ができる。			1. ◎ 2. ◎			1. ○ 2. △		1. ◎ 2. ◎	
指揮法実習	指揮の意味と役割について考え、指揮の基本図形と運動について知った後、指揮の基本的な技術を学ぶ。	1. 指揮法の役割と必要な知識、能力について説明できる。 2. 個々の楽曲に相応しい指揮の技術を選択できる。 3. 様々な音楽上の表現にふさわしい身体表現、言語表現のありかたについて工夫できる。　4. 正確な打法、図形で指揮をすることができる。 5. デュナーミク、アゴーギグの変化を的確に表現できる。			3. ○4. ◎ 5. ◎			1. ○2. ◎		1. ◎ 2. ○	
音楽通論	作曲、音響構成を行う際に不可欠な基礎的な音楽理論、及び音楽を構成している音そのものの様々な性質を理解するとともに、それらを説明出来る能力の育成を育成する。	1.音楽の概念の獲得、音楽の理論的な仕組みの理解、五線記譜法の基本的な仕組みの知識の獲得、及びその理解 2.音楽を理論的に考察する能力の獲得 3.音楽に対する広い関心の獲得と、積極的に音楽と接する意欲の獲得 4.音楽、及び芸術全般に対しての貪欲の念、及び意義を認める態度の育成 5．音楽の仕組みを解りやすく説明できる能力の獲得、それに必要な表現手段の獲得			1. ◎ 2. ◎ 3. ○4. ○5. ◎				1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ○5. ◎		
作・編曲法Ⅰ	音楽科の創作指導に不可欠な「教師自らが作曲、編曲する」力、音響構成を行う際に必要な作曲、及び編曲の基本的な力を修得する。和声法を主とするホモフォニーク作曲法を中心に、簡単な旋律の創作から始めて、少し規模の大きな器楽曲の作曲、基本的な編曲の方法などを学習する。	1.実用的和声法の知識の獲得、和声に対する基本的な理解。 2.音楽的な思考、及び音楽的な優劣、という価値判断が自分で出来るようになること。 3.様々な音楽作成方法への広汎な関心、様々な作曲手法獲得への意欲。 4.音楽的な思考を、楽曲作成という手段で表現できる技能の獲得			1. ◎ 2. ◎ 3. ○4. ◎				1. ◎ 2. ◎ 3. ○4. ◎		
作・編曲法Ⅱ	鏡的作曲法、すなわちポリフォニーと呼ばれる複数の旋律どうしの組み合による作曲法を扱う。内容は二声部の厳格対位法の解説と実習、模倣対位法としてのカノンの実作、フーガの解説などを扱う。	1.ポリフォニー、及び対位法の概念の獲得、緻的作曲手法の基本的理解、自由度の相違による厳格対位法と自由対位法の違いの認識。　2.総的な作曲法により自ら音楽的な思考が出来るようになること。 3.ポリフォニー的作曲法とそれ以外の作曲法の違いが判断できる。 4.ポリフォニー音楽への積極的な関心、及び探究への意欲。 5.対位法による作曲技能の獲得、ポリフォニーによる音楽表現技能の確立。			1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ○5. ◎				1. ◎ 2. ◎ 3. ◎ 4. ○5. ◎		
作・編曲法Ⅲ	音楽科授業での創作指導、鑑賞指導においては音楽形式の理解は不可欠である。また、音響構成においても、長い作品をまとめる際には楽曲の形式についてのセンスは極めて重要である。この授業では様々な音楽形式を学習する。	1.音楽形式（フォーム）の概念の理解、様々な音楽形式の基本的な知識の獲得。 2.楽譜を見て、音楽形式を判断できる思考力の獲得。 3．様々な音楽形式、音楽様式への幅広い関心と、意欲的に様々な音楽様式、ジャンルに接して行こう、とする意欲の確立。 4.音楽形式を解りやすく説明できる能力の獲得、及び表現力の錬磨。			1. ◎ 2. ◎ 3. ○4. ◎				1. ◎ 2. ◎ 3. ○4. ◎		
音楽史Ⅰ(日本の伝統音楽・諸民族音楽を含む。)											
音楽史Ⅱ											
音楽学総論											
卒業研究											
卒業研究	小・中学校の音楽科の実践に向けて研究してきた教科教育領域と音楽専門領域の研究のまとめとして、論文作成と演奏研究を指導する。	1．小・中学校の音楽科の実践に向けて研究してきた教科教育領域の研究のまとめとして、論文を作成・発表することができる。 2．公開の場で演奏発表を行うことができる。				1. △ 2. △		1. △ 2. ◎	1. ○ 2. ○	1. ◎ 2. ○	
ＧＰ項目別到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き）											
総合的ＧＰ到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き）											